

ガイアグループ
35期CSR報告書

(2018年6月～2019年5月)

GAIA

ガイア企業理念



ガイア行動規範

法令順守	法令や社会規範を順守し、 責任ある社会の一員として行動します	企業倫理	公正・公平・透明な事業活動を展開します
社会貢献	思いやりと感謝のこころで人と社会に 尽くします	資産保全	会社の資産・情報を適切かつ有効に 取扱います
顧客満足	コミュニケーションを通じて、さらに 満足いただけるホスピタリティを発揮します	企業風土	風通しがよく、働きがいのある職場づくりに 努めます
人権尊重	一人ひとりの多様性を認め、 すべての人々の人権を尊重します		



	企業理念・行動規範	P1
	トップメッセージ	P3
	CSR方針	P4
	社会と共に	P5
	環境対策	P8
	従業員と共に	P9
	経済成長への貢献	P11
	地域と共に	P12
	36期の取り組み	P14

35期取り組み一覧

SDGs	項目	ページ	活動内容
	社会と共に	P5～P7	日本赤十字社 活動支援 •防災・減災プロジェクト～私たちは、忘れない。～ •献血サポーター 認定NPO法人 難民を助ける会 活動支援 社会福祉法人 中央共同募金会 活動支援 ボランタリーフォーラムへの特別協賛 依存問題に対する姿勢 •安心パチンコ・パチスロアドバイザー •認定NPO法人 リカバリーサポート・ネットワークへの支援 •認定NPO法人 ワンテーポートへの支援
	環境対策	P8	Fun to Shareへの賛同 COOL BIZ／WARM BIZ 風力発電／太陽光発電
	従業員と共に 経済成長への貢献	P9～P11	ダイバーシティ推進 •キャリア支援／ワーク・ライフ・バランス支援 •女性活躍推進 ホスピタリティコンテスト 新規出店 メガガイアブランド 障がい者雇用
	地域と共に	P12～P13	ビーチクリーン活動 「荒川でちょっといいことゴミ拾い」への参加 地域コミュニティへの参加 オリックス協賛試合 大阪市への京セラドームチケット寄贈 福祉施設への寄贈

トップメッセージ

「地域と共に」「お客様のために」「親切の心で」

1984年の創業以来、当社は企業理念に沿い、遊技業を通じて「ガイアらしさ」を追求すべく企業活動を行ってまいりました。今では150店舗以上のアミューズメント施設を経営するに至りましたこと、また36期を迎えられましたことは、当社が企業単体の自助努力のみでなし得たものでは、決してございません。当社を取り巻く全ての皆様のお引き立てによるものと厚く御礼申し上げます。

昨今、パチンコ業界は厳しい環境に置かれております。そのような中、自らの価値観や過去の成功事例に固執していても新たな発想は生まれません。すべてのお客様にご満足していただけるように、常に創意工夫する力で積極的な施策を展開し、地域ならびにお客様の豊かな生活づくりに貢献できるよう努めてまいります。

これまで当社は、創業以来さまざまな皆様に支えられてきました。このつながりをもっと太く強固にしたい。その思いを、実直に、ひたむきに取り組んできた結果が、当社のCSR活動に結びついていると考えております。この報告書にて、35期のCSR活動をご覧いただき、皆様に「ガイアらしさ」を感じていただければ幸いです。

今後も、「お客様」「地域社会」「環境」「お取引先様」「アミューズメント業界」「従業員」とのつながりを大切にし努力を重ねてまいります。

引き続き、ご支援、ご愛顧のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長

良原 武夫

CSR方針

■CSR方針

当社の企業理念である「地域と共に」「お客様のために」「親切の心で」をモットーに、ガイアグループ全社員一人ひとりが、当社の行動規範に則り高い倫理観を持ち、ひとつひとつの問題に対して真摯に取り組む。それが、将来に亘り継続的に社会的責任を果たす『サステイナブル企業』としての大変な役割であると考えてあります。

とりわけ私たちは、地域住民の一員として地域の皆様一人ひとりのお声に耳を傾け、率先して地域を支える企業であり続けたいと願っております。

また、CSRを通してステークホルダーの皆様とより良い関係を目指します。



■SDGsへの賛同

今後も、「地域社会に愛され必要とされるアミューズメント企業」を目指すべく、良き企業市民としての行動に努め、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献できるよう、社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

(36期は下記4項目に取り組むことを方針として定めました。)



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です





社会と共に

■日本赤十字社 活動支援

赤十字の理念『人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う』に賛同し、2016年より日本赤十字社へ活動支援としての寄付を始めました。

活動支援金は、国内外の災害救護活動、社会福祉、血液事業、救急法の講習、赤十字病院の運営などに活用されています。

35期は、2019年2月8日に寄付を行い、社長感謝状をいただきました。

その他にも日本赤十字社を通じた、被災者支援のための義援金の寄付や、「防災・減災プロジェクト～私たちは、忘れない。～」、献血活動など、多岐にわたる取り組みに対し、参加・協力をさせていただいている。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



■防災・減災プロジェクト～私たちは、忘れない。～

今もなお、被災地で苦しんでいる人びとに思いを寄せると共に、災害で得た教訓や経験を活かし、将来起こりうる災害に対応する力を、社会全体で育んでいく活動です。

当社は、日本赤十字社の活動支援のため、ゴールドパートナーとして参加・協賛を行いました。

防災・減災プロジェクト
～私たちは、忘れない。～



■献血サポーター

当社は「献血サポーター」として、日本赤十字社の献血推進活動を応援しています。

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力する企業・団体のことを言います。

主な取り組みとしては年に1回、期間を設けて全社で積極的に献血協力をするとともに本社従業員に対しては春と秋の年に2回、町内会に特設される献血ルームにて就業時間内に献血活動に参加する取り組みを継続して実施しています。35期は135名の社員が献血を行いました。



■寄付付き商品 「ちょっとした気持ち」シリーズ

「ちょっとした気持ち」シリーズは全国流通菓子卸協同組合の取り扱う商品で、収益の一部が日本赤十字社へ寄付されます。

毎年5月に実施されている赤十字運動月間に合わせ、お客様に無料提供する総付景品として「ちょっとした気持ち」シリーズを仕入れ、35期も継続して行いました。



■認定NPO法人 難民を助ける会(AAR Japan)活動支援

「認定NPO法人 難民を助ける会(AAR Japan)」は、インドネシア難民を支援するために、政治・思想・宗教に偏らない市民団体として1979年以来の活動実績を持ち、国連に公認・登録された国際NGO団体です。1997年には、「AAR」が主要メンバーである地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)がノーベル平和賞を共同受賞しています。当社は、難民を助ける会(AAR Japan)の理念に賛同して、2016年より活動支援を実施しており、35期は2019年1月31日に寄付を行いました。



社会と共に



■社会福祉法人 中央共同募金会 活動支援

当社では、2014年より47都道府県共同募金会の連合会である「中央共同募金会」に対し、活動支援のための寄付を継続しています。35期は、2019年1月31日に寄付を行いました。

活動支援金は、障がい者の共同作業所の車両整備、社会福祉施設の改修、高齢者サロンの運営、点訳ボランティアなど、さまざまな民間の地域福祉活動に使用していただきました。

また、以下のとおり、都道府県共同募金会を通じ、被災地への寄付活動も行っています。

〈35期実績〉

2018年7月13日 福山市社会福祉協議会へ平成30年7月豪雨にて被災した方々の救援および被災地の支援として義援金を寄付

2018年9月20日 北海道共同募金会へ北海道胆振地方中東部を震源とする地震に対する義援金を寄付

2019年4月 1日 2016年から引き続き、熊本県共同募金会へ熊本地震に対する義援金を寄付

■赤い羽根共同募金

「赤い羽根共同募金運動」に合わせ、当社でも毎年全国の店舗で募金活動の強化月間を行っており、35期は2018年10月1日から12月31日の間で実施しました。募金活動を通じ、より一層社会に貢献できるよう、今後も創意工夫のもと募金活動を行ってまいります。



■ボランタリーフォーラムへの特別協賛 (東京ボランティア・市民活動センター主催)

「市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO」は、暮らしに関わる社会課題に焦点をあて、私たち市民にできることを考えていくためのイベントとして、2004年から開催されています。フォーラムの趣旨に賛同し、2015年より協賛を行っています。



■岩手県歳末たすけあい運動への募金

児童養護施設を出て働き始める方々への免許取得費用助成／転居費用助成／成人の記念写真撮影費用の支援として、寄付を行いました。



■AED設置／普通救命講習の受講促進

当社では全店舗にAED（自動体外式除細動器）の設置をしています。緊急時には正しい対処を行えるように全従業員へ救命講習の受講を推奨し、責任者を務める役職者へは受講を義務付けています。

(2019年5月末時点で869名受講済み)



■従業員の声

～従業員へ救命講習の受講を積極的に呼びかけていきたい～

第2 営業所属 主任 杉崎

救命講習での経験が大きく左右しました

梅雨の時期の蒸し暑い朝でした。開店準備中に「店舗前に倒れている人がいる」とインカムにて報告がありました。店内や事務所にいた社員・スタッフが幹部の指示のもと役割を分担し対処しました。特に当日出勤していた社員の中に救命講習を受けている社員が複数名いたことが、救急への電話対応、濡れタオルや水分の準備、救命器具の準備など迅速に対処出来た要因だったと思います。

そしてその数日後「命に別状はなくまもなく退院される」と店舗に嬉しい連絡が入りました。

講習を受けることで満足をしないように

今まででは救命講習を受けて証明書を受け取るだけになっていましたが、店舗での経験により、いざという時に生かせるようと考えるようになりました。

昨年、店舗内でAEDを使用した救命措置を実施した際に冷静に対応できたのも、社員全員で講習を生かせるように備えてきた結果だと感じます。

今後も、救命講習などには積極的な参加を従業員に呼びかけていきたいと思います。





社会と共に

依存問題に対する姿勢

■当社の姿勢

当社はパチンコ・スロットで余暇を楽しんでいただくアミューズメント企業として広く社会から受容されるためにも、のめり込みによる依存問題に関して、お客様の自己責任に帰することなく真摯に向き合っています。

また、依存問題の解決に向けて活動を行っている団体への支援を今後も積極的に行ってまいります。



全日本遊技事業者協同組合会
（株）日本パチンコ・パチスロ業界連合会

■安心パチンコ・パチスロアドバイザー

アドバイザー制度は、お客様に対し依存問題への適切な案内ができる従業員を各店舗に配置するといった、アミューズメント業界全体の取り組みです。当社もアドバイザー育成に積極的に取り組み、各店舗に3名以上のアドバイザー在籍を目標とし講習の受講を進めています。

(2019年5月末時点で772名受講済み)



当店には「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」がいます。

「安心のめり込みに注意しましょう。」
「おもかげさんへご安心あれ！」
当店の取扱い商品は、
「安心のめり込みに注意しましょう。」

パチンコ・パチスロ業界は
パチンコ・パチスロ業界連合会

■自己診断チェックツール

DSM-5の診断基準をパチンコ・パチスロ用に当てはめた「自己診断チェックツール」を店舗に設置しています。短時間で回答いただけるよう8つの設問で構成されており、診断の結果、ご不安な点がある方には専門の相談機関をご紹介しています。



■認定NPO法人 リカバリーサポート・ネットワーク 活動支援

「認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク」は、パチンコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行っている団体です。早期の適切な介入により、小さくとも回復につながる確かな一歩になることを目標に活動し、無料電話相談や対面相談会なども実施しています。

2019年4月17日に当社CSR委員会が西村代表理事へ表敬訪問を行い、活動支援として寄付の実施と意見交換をしてあります。



■社内の取り組み

安心パチンコ・パチスロアドバイザーの育成、企業HPやチラシなどへの啓発標語の使用、社員研修での教育、アルバイトスタッフへの周知・教育、依存問題の解決へ取り組む団体への活動支援、お客様へ向けた啓発ポスターの掲示など、従業員教育とお客様や社会への情報発信を行っています。

■自己申告プログラム

「自己申告プログラム」とは、利用ご希望のお客様から、1日の遊技上限金額を予め伺い、上限金額に達した場合にはお知らせさせていただく取り組みです。
(2019年5月末時点で32店舗導入済み)



■認定NPO法人 ワンデーポート 活動支援

「認定NPO法人ワンデーポート」は、日本初のギャンブルに関して問題を抱えている人のための回復支援施設です。ギャンブル依存の原因は、個々の生活や生き方の中にあると考え、医療機関に解決方法を求めるのではなく、「暮らし・仕事・余暇」の使い方を包括的な視点で見つめ直し、個別的な生活支援を行っている団体です。2019年4月22日に当社CSR委員会が東京事務所へ表敬訪問を行い、活動支援として寄付の実施と中村施設長と意見交換をしてあります。



特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク 西村直之 代表理事

私たちリカバリーサポート・ネットワークは、開設より遊技産業と協働しながら依存問題対策に取り組んでいます。顧客の保護は産業の持続的発展の基礎であり、産業の負の問題の最小化から生み出される知見・成果は地域や地域の人たちの将来に寄与すると考えています。年間約6千件の相談のうち、80%がプレイヤー本人です。自由な発想と時代状況に即した柔軟な対応がこれを可能にしています。

活動への理解と支援に対し、心より感謝いたします。



環境対策

■ Fun to Share

当社は環境省が取り組んでいる低炭素社会に向けたキャンペーン「Fun to Share」に賛同し企業登録をしています。地球温暖化の一因とされている二酸化炭素の排出を削減するため、他企業と情報やアイディアをシェアしながら節電などに取り組んでいます。



■ COOL BIZ / WARM BIZ

クールビズ期間中、エアコンの設定温度は28度を目安とし、社員・アルバイトスタッフとともに軽装で勤務しています。ウォームビズ期間中は、加湿器やサークュレーターによる空気循環などを行い暖房に頼りすぎず、冬を暖かく快適に勤務する工夫を行っています。



従業員啓発用ポスター(抜粋)

ウォームビズ豆知識 ちょっとした工夫で実現できる“室温 20°C”的知恵

部屋の温度を調節するちょっとした工夫

暖かい空気を循環させる

まずは部屋に温度計を!!

暖房のON/OFFのタイミングを考える

温度15%UPで体感温度が1°C上昇

カラダを暖めるちょっとした工夫

ランチは体をあたためる食材を選ぶ

あったかい飲み物でココロもボカボカ

デスクでできる血行促進体操

冷えと戦ってきた女性の知恵から学ぶ毛足の長い座布団

■ デマンド装置

過度な電力使用にいち早く気づけるよう、デマンド装置による電気使用量の管理を行っています。電力の「見える化」は、消費電力の大幅削減に貢献しています。



■ 電気使用時間の管理

店舗では、遊技機・店内設備・エアコン・照明の電源を入れる時間、切る時間をマニュアル化しています。時間設定については全店共通ではなく、運営状況に合わせて1店舗ずつ異なる設定で運用することにより、効果的な使用電力削減に努めています。



■ 節電設備(LED)

店舗照明のLED化を積極的に行ってています。現在、店内照明のLED化を終え、店外照明のLED化を推進しています。



■ 風力発電／太陽光発電

再生可能エネルギー電気を活用するため、メガガイア土山店の駐車場に10基の風力発電、メガガイア東大宮店及びメガガイア岩槻店には、大型店の特性を活かし店舗の屋根に太陽光発電を設置しています。





従業員と共に

ダイバーシティ推進の方針

社員のキャリア志向とワーク・ライフ・バランスを共に尊重できる就業環境を整え、企業の更なる発展を目指す
2013年にダイバーシティ推進プロジェクト(現:ダイバーシティ推進委員会)を設立し、多様性を尊重しながら、一人ひとりが活躍できる組織作りを行っています。

■キャリア支援／ワーク・ライフ・バランス支援



キャリア研修

新入社員(中途含む)に対し、
入社時に実施。



自己啓發支援制度

合格の際に受験料や、
お祝い金を支給。



人事考課面談

年2回の考課時期に、
今後のキャリア志向を
確認する面談を実施。



男性社員の育休取得促進

取得者の事例を
社内広報誌にて全社へ周知。
リーフレットの全店配付。



介護と仕事の両立支援

公的制度、
社内制度の紹介セミナーの実施。
リーフレットの全店配付。



年次有給休暇取得の促進

上位職が率先して
取得している様子を
社内広報誌にて紹介。

■女性活躍推進



妊娠期の選べる働き方

下記から働き方を選べます。
【1】通常勤務(母性健康管理措置の範囲内)
【2】事務専門勤務



育児期の選べる働き方

下記から働き方を選べます。
【1】通常勤務 【2】事務中心勤務
【3】本社管理部門への異動



妊娠育児期面談

上長および、
人事部の担当者による
メンタルケア面談の実施。



育児短時間勤務

中学校入学まで。
2時間/日まで短縮可能。
時差勤務制度との併用可能。



妊娠育児期の サポートリーフレット

妊娠判断明時には、
職場の理解を深めるため
該当者の上長にも配付。



女性社員セミナー 女性管理職セミナー

2013年より年1～3回の実施。
男性管理職セミナーは
2015年より年1回の実施。

■実績データ

●女性社員数(全社)

2013年11月	93名
	▶

2018年5月 2019年5月

152名 148名

●女性役職者数(全社)

2013年11月	40名
	▶

2018年5月 2019年5月

81名 86名

●女性社員の育児休業 取得者数 ()は期間

32期	33期	34期	35期
5名(100%)	10名(100%)	10名(100%)	12名(100%)

●女性アルバイトの育児休業 取得者数

32期	33期	34期	35期
29名	32名	38名	54名

●男性社員の育児休業 取得者数 ()は期間

32期	33期	34期	35期
1名(半年間)	1名(半年間)	2名(2ヶ月、1ヶ月)	2名(2ヶ月、1年)

■外部評価

これまでにも日本総合研究所様より「今後、女性活躍が期待できるブロース企業」と二度の評価を受けてまいりましたが、2017年に【多様な働き方の実現】という項目で高く認めていただき、初の「女性活躍の先進企業」と評価をいただきました。



■行動計画

次世代法

計画期間 : 2018年6月1日～2023年5月31日

目標 : ①期間中の育児休業取得 男性社員1名以上、女性社員80% 以上
②地域限定社員制度対象エリアの拡大
③両立支援制度の利用状況、取組みの成果や課題の把握・改善

女性活躍推進法

計画期間 : 2018年4月1日～2023年3月31日

目標 : 非正社員から正社員へ転換するもののうち、
女性労働者の比率を20%以上とする



従業員と共に

■ホスピタリティコンテスト



ホスピタリティコンテストとは、従業員のホスピタリティ（おもてなしのマインドとスキル）を評価する、ガイア独自の接客コンテストです。

アルバイト部門、社員部門に分かれており、それぞれ店舗より1名ずつ代表が選ばれ、その後、営業部の予選会を勝ち進んだファイナリストが東京で行われる本選に出場し、そのホスピタリティを競い合います。

第13回大会 2018年11月20日、浅草橋ヒューリックホールにて
第13回ホスピタリティコンテスト～Scene life X 信頼～を開催しました。



■労働安全衛生

安全衛生委員会を設置。定期的に会議を開き、各部門からの意見をもとに委員会で課題解決に向けた優先順位や、具体的な取り組みを決定しています。

新入社員には労働安全衛生の講義を実施し、正しい知識を持って業務にあたられるよう指導しています。



■こことからだの健康相談

(株)保健同人社提供の健康相談機関「こことからだの健康相談」を導入しています。育児、介護、病気、職場や家族の悩みなど、24時間体制で専門の相談員が対応しており、従業員の家族も利用可能なサービスです。



■内部通報制度

当社では、違法・不法行為が行われることを未然に防止し、または早期に発見して必要な措置を講じるための内部通報制度として、匿名の相談機関である「従業員相談ダイヤル」を社内に設置しています。従業員の休憩スペースにポスターを掲示し広く周知するとともに、社員研修での周知・教育も実施しています。





経済成長への貢献

■新規出店

MEGA GAIA

メガガイアブランド

2011年より、当社はトップブランドとして、「メガガイア」の全国展開を本格的に開始しました。

■新規店舗紹介

メガガイア越谷大里

埼玉県越谷市大字大里465番地1

- ・2018年10月オープン
- ・設置台数 1,468台 ※オープン時

埼玉県では和光店、岩槻店、東大宮店に続くメガガイアとなります。「ありがとう。と言ってもらえるお店に」をコンセプトに多くのお客様に愛される店舗を目指しています。



メガガイア盛岡みたけ

岩手県盛岡市みたけ2丁目8番80号

- ・2018年12月オープン
- ・設置台数 1,253台 ※オープン時

岩手県2店舗目の出店となり、総台数は県内最大級の設置台数です。店内設備はパチンコ・スロットともに分煙ボードを設置。お客様のパーソナルスペースをしっかりと確保出来ているお店です。今後も地域に愛されるお店作りを目指していきます。



■障がい者雇用

当社では2008年より「障がい者の職能と適性に応じた職場づくり」に取り組み続けています。2019年5月末時点では、39の店舗において、駐車場の巡回や駐輪場の整理及び清掃業務を障がい者スタッフが行っています。これからも安心して長く働き続けられる職場環境や仕組みを整備していくにあたり、35期より「農園型障がい者雇用支援サービス」に参画しました。この農園では障がい者7名が農業に従事、ハーブを栽培しオリジナルフレンドティーに加工しています。障がい者雇用の“多様化”を実現した取り組みです。





地域と共に

■ビーチクリーン活動

2019年3月27日ビーチクリーン活動を実施しました。ビーチクリーン活動は、地域社会貢献の一環として海岸周辺でゴミ拾い活動を行い、海岸の継続的な美化を目指すもので、2014年に開始してから今回で5回目の活動となります。今回も前回に引き続き、神奈川県内店舗に所属する従業員を中心に、神奈川県藤沢市の江の島海岸を16名で清掃しました。また、2019年4月1日ビーチクリーン活動の支援等を行っている公益財団法人かながわ美化財団に対し、活動支援として、寄付とゴミ袋の寄贈を行いました。



■「荒川でちょっといいことゴミ拾い」への参加

2018年11月3日ふるさと清掃運動会が主催する「荒川でちょっといいことゴミ拾い」に当社から40名が参加しました。当社からの参加は今回で5回目となり、約750名のボランティアの皆様と共に、東京都墨田区の荒川河川敷のゴミ拾いを行いました。



■町内会への参加1

東京都中央区日本橋に本社を構える当社は、地域社会の一員として、2年に1度開催される「日本橋横山町大祭」の神輿担ぎに参加しています。本社社員より担ぎ手を集め、横山町大通りを中心地域を盛り上げる恒例行事に参加することで、近隣住民の皆様とも楽しい交流ができる貴重な機会になっています。



■町内会への参加2

本社だけでなくガイアグループ各店舗も、店舗近隣のお祭りに、協賛金寄付や神輿担ぎ手としての参加など、様々な形で協力しています。



■地域へのチャリティー

豪雨災害や地震に見舞われた地域に対して、日本赤十字社や該当地域の社会福祉法人等を通じ、寄付を行っています。35期は災害の多い年だったこともあり、平年より多い10件の寄付を行いました。



地域と共に

■オリックス・バファローズ 協賛試合の開催

当社は、オリックス・バファローズが球団理念として掲げる「野球を通じて、“感動”と“興奮”，そして夢をお届けします。」「コミュニティ活動に積極的かつ継続的に取り組み、地域社会の“まちづくり”“ひとつづくり”に寄与します。」に賛同し、2010年よりプロ野球協賛試合「今日はみんなでガイアマッチ」を実施しています。

2018年6月16日にオリックス・バファローズ VS 横浜DeNAベイスターズ戦(京セラドーム大阪)にて協賛試合を開催し、28,069名の方がご来場くださいました。オープニングセレモニーにて当社従業員による花束贈呈、また一般公募で当選された方による始球式を行いました。当日は開門からご来場いただいたお客様に、ガイアマッチデザインの特製うちわを配布し、試合前にはお子さま達に楽しんでいただけるストラップアウトのアトラクション(対象：小学生以下限定)を実施しました。



■オリックス・バファローズ 観戦チケットの寄贈

当社は、豊かな社会づくりに貢献するため、2010年より京セラドーム大阪で開催されるオリックス・バファローズの観戦チケットの寄贈活動を行っています。

35期は、観戦チケット35シート分を、大阪市を通じて福祉施設へ寄贈しました。過去10年間の累計にて、約17,975シート分を寄贈しています。



■お菓子の寄贈

店舗では、「お気持ち箱」という箱を設置しています。お気持ち箱には、お客様が寄付してくださったお菓子が入っており、お預かりしているお菓子は、定期的に全国の福祉施設へ社員・アルバイトスタッフの手でお届けしています。

35期は、165施設へ856箱分のお菓子を寄贈しました。



36期の取り組み

(2019年6月～2020年5月)

第36期 CSR 実施計画表

SDGs	ISO26000	当社の社会との約束		36期の主な取り組み項目	
	中核の主題	行動指針	役割の明示 (責任)		
	組織統治	コーポレートガバナンス 内部情報の管理	社会価値		
	公正な事業慣行	公正・公平な取引 法令を順守した行動	コンプライアンス 内部通報制度		
	消費者課題	適正な表示と快適な遊技環境の提供 クレームの迅速な対応と活用 個人情報の適正な保護 依存問題の解決 生活文化向上への貢献	お客様価値 パチンコ業 価値	全店舗AED の設置 お客様相談ダイヤル 情報セキュリティ委員会の運営 依存問題への支援 安心パチンコ・パチスロアドバイザーの育成 福祉団体への支援	
	環境	環境保全のための対策	環境価値	CO ₂ 排出量等削減 (LED 化、テマンド装置設置、等) Fun to Share への賛同 COOL BIZ / WARM BIZ	
	労働慣行	公正・公平な職場環境 人材育成の環境づくり 社員のキャリア志向とワーク・ライフ・バランスを共に尊重できる就業環境	従業員価値	ダイバーシティ推進委員会の運営 女性活躍推進法に基づく行動計画の実行 次世代法に基づく行動計画の実行 ポジティブアクションへの賛同 ホスピタリティコンテスト 安全衛生委員会の運営 出店による地域の雇用促進	
	人権	経済成長への貢献			
	コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	知的財産の尊重	地域価値	町内会への協力 地域の祭りへの協賛 清掃活動の推進 スポーツ振興への支援 事業所別ハザードマップの制定	

[http:// www.gaia-jp.com/](http://www.gaia-jp.com/)



お問い合わせ先  0120-924-582
(お客様専用窓口)